

2. 未来社会

スライド4 バルト海 船上からの 日の出

私が物心がついた頃は、日本全体も貧しく未来に期待するしかなく、未来に関心を持っていました。学生時代「コンピューターの作る未来像」という懸賞論文に入賞したこともあります。

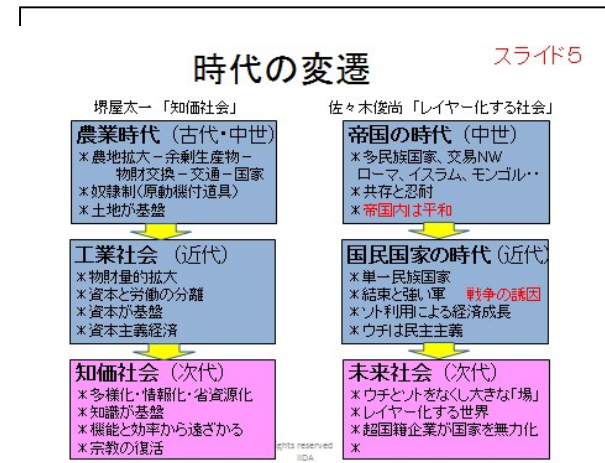
企業にとっても、個人にとっても「未来予測」は戦略の最重要な基礎だと考えますが、日本ではなぜか「未来」を考えることに熱心ではないようです。

時代の変遷

時代は農業時代・工業時代を経て、知価社会に至るとの堺屋太一さんの世界観が私の未来観のベースですが、佐々木俊尚さんが「レイヤー化する社会」で、帝国の時代・国民国家の時代をへて未来社会に至りつつあるとの新しい視点を提供されました。

堺屋さんは時代の主要製品とその生産基盤の視点です。佐々木さんは時代の国家体制の視点から見たもので矛盾はないと考えます。

佐々木さんの主張は国民国家の時代は、国家や企業がタテ割りで存在し、ウチ側は民主的に運営されていますが、矛盾や問題点はソト側に押し付けられてきました。ソト側の国々も民主化されウチ側になり、困ったことになったというのが現在の状況です。



レイヤー化する社会

未来社会 (次代) はタテ割りがくずれ、ヨコ割になる、これをレイヤー (層) 化するといわれています。たとえばインターネット、超国籍企業 (グーグル、アップル、アマゾン……)、SNS、検索などのレイヤーが考えられ、それぞれのレイヤーの中で競争が行われ、レイヤーは国家や地域の壁をぶち破り、旧来の秩序をくずすだろうとの考えで、私の未来観とも一致しています。

英国の EC 離脱も、トランプさんの考えもタテ割りの国家に閉じこもろうということで、時代に逆行していますが、1つの揺り戻しにすぎず、大きな潮流は変わらないでしょう。

ローカル・ムーブメント

レイヤーが地球規模であるのに対し、小さな運動もあります。1つはオープンソースで、自分たちが好きなものを好きなように製作したり、改善したりし、対価や報酬などを要求しない。作ることが楽しいといった運動です。

また、藻谷浩介さんが「里山資本主義」で提唱されている活動があります。金より自然や人とのつながり、地産地消、生きがい、里山の回復、働く場の提供、心身の健康回復などを目指しています。

MIT のガーシェンフェルドはファブラボ運動をはじめました。パソコンや3D プリンターなどを活用し、必要なもの、自分用のものを作り、社会や暮らしのあり方を変える運動です。

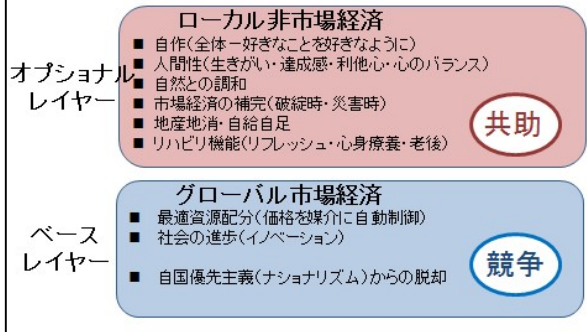
これらの共通点は、好きなものを好きなように自分で作る、金でなく、生きがい・やりがい、人との絆重視、工業時代との決別、などです。

ハイブリッド世界システム

私は、日本の社会や企業が激しいグローバル競争を勝ち抜くよう、コンサルテーションを行ってきたつもりです。しかし、富山和彦さんのグローバル (G) とローカル (L) の世界は違うとの考えに納得しました。例えば地方のタクシー会社には競争はないが、サービスの堅持や需要創造には、競争社会を生き抜くのと同等異質な知恵と努力が必要なのです。

堺屋・佐々木・飯田の未来観とオープンソース・藻谷・ガーシェンフェルドの考え方に富山の考え方を総合したのが、私のハイブリッド世界システムの考え方で、多くの国・地域・人々が無理なく参画できる理想のシステムだと考えるようになりました。

2レイヤーの効用



ベースレイヤーはあくまで競争を理念とするグローバル市場経済であり、日本企業も日本人もこのレイヤーでの活躍を目指すべきだと私の考え方に変わりはありません。

ただ、グローバル市場経済が適合しにくい、地域・業種・人・思想などの存在も否定できず、その場合は共助を理念とするローカル非市場経済が補完システムとしてあるわけです。

私たちは、グローバル市場経済 (G) の世界とローカル非市場経済 (L) の世界を、週日と週末、昼と夜、壮年期と老年期など個人のニーズにより適宜行き来することにより、高い人生の満足が得られるのではないのでしょうか。